

少壯者許玩之其制古用赤小豆鎖中世用犬鎖釣釜者以銅鐵造之其形有圓鉤木瓜鎌刃不過此三者而以應于釜宜者也或間取南蠻鐵帶用之多兩面銀鏤之今用犬鎖者始宗易又有以真鍮爲之且由古及今施於堂上不容茶房蓋天上有蛭鉤則爐中無鼎頭是乃其式也

〔千家茶事不白齋聞書〕くさりの事

一くさは茶之湯には不用書院向又は敷込杯に用いぬぐさはあらくあづきぐさは細く兩種共用

〔茶道筌蹄三〕釜添品目

鎖 むかしは唐物を用ゆ小座敷は五徳と替る様にす廣間は時節にかまわす鎖を用ゆる故に鎖の間といふ當時は是によらず

〔真要集三〕鎖自在會釋之事

- 一鎖名之事 細鎖 一重鎖 二重鎖 丸鎖 小豆鎖 錢鎖

右の通にて鐵の自在を仕掛たる鎖も有之候是は自在を會釋に茶を立申候鎖に付たる釜を大釜と云釜の釣を掛申釜なり大釜の上にくるく廻り申所を元折と云なり其上の小釜をゆるしの釜とも又小釜とも云也上の少き環は天井に打申候蛭釜に掛ル環也蛭釜は寸法有外に記蛭釜を天井に打申候は鎖にては釜のまきの方を勝手へ向キ申候様に打申候とかく大釜と背申様に打申候物也

〔茶道要錄主上〕釜之事同水遣具

一鎖之事赤小豆鎖犬鎖トテ有共ニ用ユ龍頭ノ恰合アリ總ジテ長サノ大法アリ

〔下學集下〕建蓋 烏蓋

〔運歩色葉集天〕天目